

# 同志社大学

## 2013年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014年3月26日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	准教授	中西 裕樹
研 究 題 目	ショオ語文法の包括的記述研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では、将来的にショオ語の reference grammar を編むことを目的としており、今年度は特にアスペクト体系の記述・解明を進める予定であった。ところが、2013年4月より京都大学人文科学研究所の「漢語と周辺諸語の類型構造論」共同研究班に参加することになり、そこでの共通テーマが各言語における名詞句の構造であったため、本研究も予定を変更して、ショオ語の名詞句の構造を中心に記述・分析を進めることとした。</p> <p>具体的には、名詞句の中でも所有者とその指示対象との関係を表す所有者表現について研究を行い、上述の共同研究班において「ショオ語の所有表現」と題する発表を行った。ここで報告した内容は、さらにその後のフィールドワークで得た資料を補った上で全面的に改稿し、「ショオ語の所有者表現- 言語接触による変容-」と題して『高田時雄教授退職記念東方学術論集』（仮題、2014年6月刊行予定）に寄稿した。同稿では、ショオ語の所有者を表すマーカ―は「遠称指示詞+類別詞」という形をとるが、これは同系のミャオ・ヤオ諸語には見られないものであり、周辺の粵語との接触により、粵語の形式を借用したものであることを主に論じた。同時に、ショオ語の所有者マーカ―の共起制限や文法化の程度等についても詳述している。</p>	